

高遠城の歴史

高遠城は三峰川と藤沢川に挟まれた河岸段丘の突端に造られた平山城です。本丸を中心として取り囲むように二ノ丸、南曲輪、三ノ丸などの曲輪を配しており、環郭式と呼ばれる縄張りです。

高遠は古くから諏訪氏の勢力圏にあり、南北朝の頃より諏訪氏の支族である高遠氏が一円を治めていましたが、諏訪から伊那谷へ抜ける交通の要衝であり、駿河や遠江に進出するための重要な地点であったことから、戦国時代の天文年間（1522～1555）に武田信玄がこの地を押さえました。その後信玄は高遠城の拡張を家臣に命じ、天文16年（1547）に「鎌立て」を行っています。この時指揮をとったのが山本勘助であると伝えられています。後にも大規模な改修がされているため、信玄の頃の城の姿は分かっていません。しかし、曲輪の周囲にめぐらされた深い空堀や土塁からは、地形を巧みに利用した戦闘的な城の姿をうかがい知ることができます。武田氏による高遠支配は35年間続きましたが、高遠城は南信州の拠点として重要視されたため、城主には諏訪（武田）勝頼や仁科五郎盛信など、信玄の近親者が就いています。中でも天正10年（1582）、伊那谷に攻め入った織田軍と壮絶な戦いを繰り広げた仁科五郎盛信の姿は、後々まで語り継がれています。

江戸時代になると高遠城は高遠藩（石高33,000石）の政庁として、保科氏、鳥居氏、内藤氏と約270年間にわたり上伊那の政治の中心となりました。戦国期武田氏時代の高遠城は、大手が月蔵山の方角、東側にありましたが、江戸時代前期の鳥居氏時代までには西側に変更されたといわれています。主要な街道沿いに発達した西高遠の門前町を城下町として取り込むように、近世城下町の建設と城郭の大改修が行われたのです。現在の高遠城跡はこの時に整備された曲輪配置をそのまま残しています。

江戸時代初頭に高遠藩主であった保科正之は、2代将軍徳川秀忠のご落胤として知られています。正之は高遠から最上を経て会津へ移封となり、藩祖として会津松平家の基礎を築きました。また元禄4年（1691）に鳥居氏に代わって藩主に就いた内藤氏は、明治時代にいたるまで8代にわたり高遠藩主を務め、高遠藩で最も長い治世を誇りました。

明治維新後、高遠城は廃城となり本丸御殿や門、橋など城内の建物はすべて取り壊され、石材や立木、土地にいたるまであらゆるものが民間に払い下げられました。そして、明治8年（1875）に城跡の公園化が決定すると、地域の人々が集う「高遠公園」として新たな道を歩み始めました。昭和48年（1973）には国の史跡に指定され、平成18年（2006）には日本百名城の1つにも選ばれており、現在は都市公園「高遠城址公園」として多くの人々に親しまれています。

高遠城跡とタカトオコヒガンザクラ

高遠城跡内の桜は、明治8年（1875）に旧藩士らの手によって、城下の「桜の馬場」から移植されたことに始まり、代々大切にされてきました。現在1500本を数えるこれらの桜は「タカトオコヒガンザクラ」という固有種で、花びらの赤みが強いのが特徴です。昭和35年に「高遠のコヒガンザクラ樹林」として長野県の天然記念物に指定されています。春を迎えた高遠で、城一山をピンクに染め一斉に咲き誇るコヒガンザクラは、まさに「天下第一の桜」です。



■ご利用案内

【休園日】 年中無休
※観桜期間のみ入園時間が決められています。
詳細はお問合せください。

【入園料】 無料（※観桜期間のみ有料）
【駐車場】 有（※観桜期間のみ有料）

■アクセス

【お車】 中央道伊那インターよりR361 経由 約30分
中央道諏訪インターよりR152 経由 約50分

【公共交通機関】
JR飯田線「伊那市駅」下車の後、JRバス高遠線に乗り換え「高遠駅」下車、徒歩約15分



■お問い合わせ先

伊那市観光協会（伊那市役所内）

長野県伊那市新田3050番地 Tel.0265-78-4111

伊那市観光協会 高遠支部（伊那市高遠町総合支所内）

長野県伊那市高遠町西高遠1806番地 Tel.0265-94-2552

伊那市教育委員会 高遠長谷教育振興課 文化財係

長野県伊那市高遠町西高遠1806番地 Tel.0265-94-2557



高遠城跡

国指定史跡
日本百名城

郭上

